2024 年 3 月 9 日

令和 5 年度　世田谷区立三宿中学校学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立三宿中学校
学校関係者評価委員会
委員長　友野　清文
校　長　濱川　一彦

【はじめに】

本報告書では、本年度の学校運営方針に示されている「重点項目」について、学校関係者評価アンケートの結果を基に、その達成状況を確認し、次年度への提言を行う。

令和 5 年度の学校経営方針では、「教育目標」と「校訓」の下で、「重点項目」として以下の 6 点の事項が示されている。

［教育目標］
・ 自ら学び、考え、正しく行動する生徒
・ 励まし合う生徒
・ 心身ともに健康な生徒

［校訓］
「智」物事を正しく見抜く力をつけ、正しく実行できる人を育てる。
「優」思いやりの心を素直に表現でき、励まし合える生徒を育てる。
「翔」心身ともに健康で大きく羽ばたく、たくましい人を育てる。

［重点項目］
（１）教員の指導力向上とＩＣＴの活用
・「生徒の理解を深め、活用・探求する授業の推進」
・「教育デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）の推進」
・「自己肯定感を高めるため、わかる教科、好きな教科を増やす工夫」
・「教員研修の充実」
（２）個を生かした教育の推進
・「生徒の個性が生かされる教育の推進」
・「生徒・教員が双方向で規範意識を高める生活指導の推進」
（３）進路指導の充実
・「キャリア・未来デザイン教育の推進と実現」
・「生徒の当事者意識の向上とＰＴＡと連携した進路相談会の充実」
（４）生徒の主体性の育成
・「学校での生活や行事において生徒が主体的に関わり、成長を実感できる指導の充実」
・「学校生活への適応指導と部活動の適切な指導の徹底」
・「健康や体力の維持向上」
・「20 周年行事に向けた取り組みの活性化」
（５）学校からの情報発信による保護者・地域との連携
・「学校からの丁寧な説明と情報発信」

・「学校からの迅速な情報発信と防災意識の向上」

（６）公務員として十分留意する内容
・「教育課程管理」
・「出退勤・出張・休暇の管理」
・「体罰・暴言等の未然防止」
・「個人情報の管理」
・「不審者対応」
・「ライフワークバランスの推進」
・「和を大切にした協力関係の構築」

【学校関係者評価アンケートについて】

① 概要

アンケートは 2023 年 11 月に実施された。回答状況は以下の通りである。

生徒	全校生徒数	373 名	回答数	289 名	77.5%（昨年度 78.3%）
保護者	対象保護数	361 名	回答数	156 名	43.2%（ 同 20.4%）
地域	回答依頼数	65 名	回答数	18 名	27.7%（ 同 34.3%）

昨年度から世田谷区は、アンケートの Web 回答法を採用したため、保護者の回答率が大幅に低下した。今年度は、保護者に対して 3 回配信を行った（学校が回答状況を随時見られるようになったため、2 回目にはその状況もつけ加えて配信をした）。そのため、今年度の保護者の回答率は、昨年度の倍以上となったが、それでも半数に満たなかった。

また地域については、今年度は Web 回答のみとした。回答率が低下しているのは、紙媒体を廃止したことにも一因があると思われるが、今後 ICT 化が一層進むことを考えれば、回答する側のスキルアップも必要であろう。

なおアンケートは各設問に対して「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」の 5 択である。以下では「とても思う」と「思う」をまとめて「肯定的評価」、「あまり思わない」と「思わない」をまとめて「否定的評価」とする。また数値（%）は小数点以下を四捨五入した。

② 学校関係者評価アンケートによる重点項目の検討

学校運営方針に掲げられた重点項目について、アンケートの結果から検討したい。なお今年度は、各々の重点項目に数値目標が掲げられているため、その点を中心に見る。

（１） 教員の指導力向上とＩＣＴの活用

数値目標：以下の評価項目を 80%以上とする。

① 先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。
② 授業では考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。
③ 先生は映像やタブレット等のＩＣＴを利用しわかりやすい授業をしている。

生徒アンケート項目では、「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」への肯定的評価が 87%、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」が 95%、「先生は、映像やタブレット等のＩＣＴを利用し、分かりやすい授業をしている」が 84%と、いずれも 80%を上回っている。学年別では、1 年生で第一・第三項目の肯定的評価がやや低い。

一方で、これらの項目に対する保護者の回答では、肯定的評価が各々53%、76%、46%である。否定的評価よりも、「分からない」が多い。

【校長所見】

一人一台端末の使用があたり前になり、以前の授業の進め方である黒板を使って生徒がノートを写すような授業は古いと感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、アンケートの項目にもある昔ながらの授業もまったくなくなったわけではありません。タブレットを使うと意見交換やまとめる際に便利で、授業の内容を説明する際には黒板を使い、問題を考える際には先生自作のプリントを使い、テスト対策にもなるなど教員が工夫した使い分けをしています。工夫した授業が進められているのです。

自分の考えをまとめ、他者へ伝えることで多様な考えを共有しさらに自分の考えも深めていくグループ活動がたくさんの授業で行われています。例えば３年生の国語の授業では、各５，６ 人のグループに別れ肯定派と否定派とで意見を交わすディベートを行います。そこには進行役や計時役、聴衆となってクラス全体で進め聴衆からはディベート終了後にそのグループの良かった点や改善点について指摘があがります。内容も「憲法第９条を改正すべきだ」「死刑制度は廃止すべきだ」「ライドシェア制を認めるべきだ」「安楽死を法的に認めるべき」など多岐にわたり各クラス３時間の内容で行っています。

先生方は授業の内容を考える際、文字や言葉の説明だけでなく図や写真、映像などを活用し分かりやすく生徒が印象に残るように、自分の端末に取り込んでいます。そして、授業の中で効果的に提示し、写真について気付いた点を話し合わせたりして興味・関心を高めさせています。１年生だけで見ると①の項目 78%、③の項目 76%と 80%には届いていませんが肯定的意見は多くなっています。しかし、さらに数値をあげるためにはさらに先生方が積極的に活用できるよう工夫を促していきます。

（２）個を生かした教育の推進

・「生徒の個性が生かされる教育の推進」

・「生徒・教員が双方向で規範意識を高める生活指導の推進」

数値目標：以下の評価項目を 80%以上とする。

① 私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。

② 先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。

③ 私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解している。

生徒アンケートでは、「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」への肯定的評価は 87%、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」は 78%、「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解している。」は 79%である。保護者アンケートの「本校は、学校での過ごし方やルールについて子ども

たちに考えさせる指導をしている。」への肯定的評価は 63%、「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」は 72%となっている。生徒については 2 年生にやや否定的評価が多い。

【校長所見】

「多様性」は現代社会で一つの大きなキーワードになっています。制服に女子のパンツ型が登場し当たり前になってきました。校則についても以前のように校則で決まっているからという指導はなくなってきています。「より良い学校生活を送るために」という視点で生徒、教師双方向で確認し合うことで、問題行動や校則違反が自然と減少しています。数値的には 80%に届いていない項目があり残念ですが、①の項目では自分自身は考えて行動しているが、先生は考えさせて行動させていないという差は９％あり、差を少なくしていきたいと思います。

保護者からの聞き取りでは３年生の代表の方は、「靴下の指定などの意味のない校則がなくなった」「服装が乱れている生徒を見なくなった」との意見をいただきましたが、保護者アンケートでは 63%と低い数値になってしまい、改善できるよう取り組んでまいります。

（３）進路指導の充実

・「キャリア・未来デザイン教育の推進と実現」

・「生徒の当事者意識の向上とＰＴＡと連携した進路相談会の充実」

数値目標：以下の評価項目を 70%以上とする。

① 私はキャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。

② 自分の進路や将来の仕事について考える授業がある。

③ 学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。

進路指導やキャリア教育については、生徒アンケートの「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」への肯定的評価が 73%、「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」が 82%、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」が 72%である。いずれの項目でも 3 年生の肯定的評価が高いのは、これまでの傾向であるが、今年度は 1・2 年生でも評価がかなり上昇している。

【校長所見】

この重点項目のみ 70%以上を目標としましたが、数値目標をクリアーすることができました。今年度は新しい取り組みとして、地域の方の職業講話を実施することができました。当初は保護者の方にお願いしていたのですが、手を挙げる方がいらっしゃらなく、ＰＴＡ佐藤会長に紹介していただいた地域の方２名からご自身の仕事の内容や、心構えを話していただき中学生のころの考え方や行動について助言をいただき、生徒からは事前に質問などをアンケートして答えていただく形をとりました。１、２年生で講話することができ、生徒たちも興味・関心を高めることができました。

①の評価項目では昨年度と変わりませんでしたが、②の評価項目では昨年の数値 66%から 82%と大きく改善しました。③の評価項目についても昨年 62%から 72%とこちらも改善することができました。来年度もさらに伸ばせるよう、進路指導を充実させていきたいと思います。

（４）生徒の主体性の育成
・「学校での生活や行事において生徒が主体的に関わり、成長を実感できる指導の充実」
・「学校生活への適応指導と部活動の適切な指導の徹底」
・「健康や体力の維持向上」
・「20 周年行事に向けた取り組みの活性化」
数値目標：以下の評価項目を 80%以上とする。
・ 先生は、生徒の意欲を大切にしている。
・ 学校生活は楽しい。
・ 学校行事は楽しい。
・ 私は、関わる人を大切にしている。
・ 私は、体育の時間以外に、運動やスポーツに取り組む機会がある。

この 5 項目の中で、生徒アンケートでは「先生は、生徒の意欲を大切にしている。」「学校生活は楽しい。」「学校行事は楽しい。」が問われている。これらに対する肯定的評価は各々、79%、86%、90%である。保護者への同様の設問への肯定的評価は各々、76%、76%、89%である。また最後の項目に関連する「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」への肯定的評価は 73%である。
また部活動への生徒の肯定的評価も 70%以上であり、昨年度より高い。

【校長所見】
学校行事による生徒の成長は著しいものがあります。責任ある立場になることで自分で考え、伝えることが必要になります。学校行事の二大行事は「体育大会」「学習発表会」ですが、どちらの行事でも生徒は生徒会の委員会活動とは別に実行委員会を組織し、役割を分担しながら、その行事の成功に向けて努力します。そして、クラスや学年の仲間に成功に向けて協力を促し、紆余曲折はありますが、終わってみるとクラスや学年が団結し「やってよかった」と思えるものになっているようです。これからも学校行事を生徒主体で開催できるようにしていきたいと思います。「学校行事は楽しい」は生徒９０％・保護者８９％と高い値です。
「学校生活は楽しい」という項目では生徒８６％と保護者７６％と値が１０％差になっていますが、思春期ということもあり学校のことを家庭であまり話さないことでの差？なのか、いやだったことを保護者に伝えているのか、うまく理解できません。
「先生は、生徒の意欲を大切にしている」の問いには、生徒７９％、保護者７６％と８０％に届いていませんでした。しかし、先生方は生徒がやる気をもって取り組んでくれることには協力を惜しまないはずです。複数の立候補があるとどうしても一人を選ぶことになり、そういう意味では全員の意欲を汲んでいるとは言えないでしょうか。
勉強はもちろんですが、学校生活・学校行事どちらも充実させることが生徒の意欲を高めることに変わりはありません。先生方にも生徒の意欲を引き出す指導をさらに工夫するように指導していきます。

（５）学校からの情報発信による保護者・地域との連携
・「学校からの丁寧な説明と情報発信」

・「学校からの迅速な情報発信と防災意識の向上」
数値目標：以下の評価項目を 80%以上とする。
・ 本校は様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。
・ 本校はホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。
・ 本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。

これに関しては、保護者アンケートで「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」への肯定的評価が 77%、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」が 81%、「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」が 70%、「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」は 76%である。

地域アンケートでも、「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。」への肯定的評価は 90%である。

情報提供については、目標数値に達しないものはあるが、概ね評価は高いと言える。ただ、「本校は、保護者に指導の重点を伝えている。」「私は、今年度の指導の重点を理解している。」への肯定的評価は、各々55%、37%となっており、情報の内容についての検討は必要であろう。

【校長所見】

「開かれた学校」を目指して学校経営を行っています。コロナが収束し学校へ来校する地域・保護者の方が増えました。学校行事はもちろん広く地域・保護者に情報を発信していきたいと考えています。令和６年度は２０周年式典も予定され、さらに地域へ三宿中学校の取り組みを発信してまいります。気が付いた点がありましたら教えてください。保護者の皆様からはおおむね高い評価をいただいていますが、副校長はホームページの更新を毎日行うことを目標に動いてくれ、移動教室や社会科見学、宿泊行事などは参加する管理職が日に複数回の生徒たちの様子をアップし更新しています。ホームページだけでなく、学校からのアンケートやお願い等情報機器を活用し知らせるようになっています。そのようなことが評価の高さにつながっていると思います。さらに続けていきたいと思います。

学校としての指導の重点の発信は課題であり、来年度は改善するために工夫して取り組んでまいります。

（６）公務員として十分留意する内容
・「教育課程管理」
・「出退勤・出張・休暇の管理」
・「体罰・暴言等の未然防止」
・「個人情報の管理」
・「不審者対応」
・「ライフワークバランスの推進」
・「和を大切にした協力関係の構築」
数値目標：以下の 評価項目を１００ %とする。
・定期的な 服務研修自己診断における「とても思う」「思う」

この重点項目と数値目標に関するアンケート項目はない。

【校長所見】
社会では教員不足という言葉が聞かれ、教員選考試験の希望者が毎年最低を記録する状況です。地方自治体も人材の確保のため、いろいろな手を打っていますが、どのように推移していくのか状況を見守るしかありません。
世田谷区においても令和６年度は働き方改革を第一と考えると教育長は明言しましたが、上記の公務員として留意する項目はどれも外すことはできません。まずは我々教員が率先垂範してしっかり生活していくことが教員という職に対する前向きな考えに変わると考えます。
都では２０２５までに部活動を地域移行するという計画をもっています。しかし、地域の方が学校で取り組んでいるすべての部活動について、指導していくことは現時点では考えにくいことです。今年度は女子バスケットボール部が２名の方平日、休日共に指導していただいていますがうまくいった事例です。
部活動以外でも地域・保護者の皆さまにもご理解いただき、ご協力いただき場面があると思いますがよろしくお願いいたします。

以上で取り上げなかったアンケート項目への回答状況を踏まえ、本委員会は以下の提言を行う。

（１）学習指導について

学習指導に関する評価は概ね高く、授業での様々な工夫や ICT の効果的な活用が行われていると言える。他方で、「私は、家庭で宿題や e-ラーニングなどで学習している、」への生徒の肯定的評価は 60%であり、最も高い 3 年生でも 70%弱である。他方で塾を利用している生徒は 80%近く、1 年生でも 60%を上回る。学校外での学習については子どもや家庭毎の状況があり一概には言えないが、授業や宿題は、生徒に学力や「生きる力」をつけることが目的である。生徒に関わる大人として、これからの社会を生きる子どもたちにどのような力をつけるべきかを考えることが重要であろう。

（２）生活指導について

「個性を生かす」ことと「規範意識」が重点目標に掲げられているが、「規範意識」は、ただきまりに従うことではない。場合によっては、きまりを疑い、自らできまりを作っていくことも重要である。生徒にとっても、望ましいきまりについて意見交換を行い、合意形成に至るプロセスを体験することが、大きな学びになる。昨年度も指摘したが、20222 年 12 月に改訂された『生徒指導提要』の内容について教職員の共通理解を得て、生徒が学校生活の主人公となれる生活指導を進めていくことが重要である。

（３）進路指導・キャリア教育について

キャリア教育については、かなり取り組みの進展が見られている。小学校との連携を含めて、総合的な学習の時間や特別活動に加えて、各教科指導の中にも取り入れることが重要であり、学校教育全体の中に計画的に位置づけていくことが必要である。

進路指導は、多くの生徒が初めて経験する人生選択の場面であるが、キャリア教育の成果が十分反映されるような指導が重要であろう。

キャリア・パスポートについては、学習指導・生活指導にも関わるものであり、生徒と教

員の双方にとって、できるだけ負担を少なくした上で、学習に本当に意味のある形で活用されることが必要である。しばらくは試行錯誤の段階として、様々な試みを行っていくことが期待される。

（４）学校生活について

今年度５月８日の「コロナ「五類以降」に伴い、今年度は多くの学校行事や部活動が、ほぼ制限なく実施された。今後とも生徒が様々な形で活躍できる場面を設けることが必要である。

部活動については、様々な議論や試みが行われているが、生徒にとって学習の場となるように、活動環境・条件を確保することが重要である。

また不登校に対しては、「教育機会確保法」の理念に照らし、生徒自身にとっての最善の学習・生活環境を保障するような取り組みが重要である。

（５）保護者・地域との連携について

学校教育は、保護者と地域との連携なしには成立しない。学校が必要な情報発信をすることは重要であるが、保護者も学校教育の方針や内容を知る努力を行うことが必要であろう。保護者は学校の「顧客」ではなく、子どもを挟んで学校（教員）と協働すべき当事者である。

本校は来年度創立 20 周年を迎え、周年行事が計画されているが、改めて保護者・地域と学校の関わりを考える機会ともなればと思う。

おわりに

昨年度も述べたことであるが、学校教育を巡っては「チーム学校」「教員の働き方改革」「学習における個別最適化と協働」「部活動の地域移行」「教員免許更新制度”廃止”後の新たな研修制度」などなど、様々な課題が提示されている。また新型コロナ感染状況も予断を許さない。

その中で、日々教育活動にあたられている教職員の方のご尽力には、心から感謝申し上げる。